

ているる図書情報室 2階

NEW 11月の新着図書



書名	著者	テーマ	書名	著者	テーマ
諸屯	真喜志興亜	郷土	おいしいごはんが食べられませんように	高瀬隼子	文学
ソ連兵へ差し出された娘たち	平井美帆	戦争犯罪	本当は逢いたし	池田澄子	文学
「だましだまし生きる」のも悪くない	香山リカ	自己啓発	ふむふむ：おしえて、お仕事!	三浦しをん	文学
ちょっとそこまで旅してみよう	益田ミリ	紀行	ネコの住所録	群ようこ	文学
ブーチンの野望	佐藤優	政治 ロシア	自決ころの法廷	澤地久枝	戦争関連
妻のトリセツ	黒川伊保子	夫婦 性差心理学	ラッキー嬢ちゃんの あたらしい仕事	高野文子	コミック
となりのLGBT：初心者向けQ&A	金城克哉	LGBT ア性	消えたママ友	野原広子	コミック
当事者は嘘をつく	小松原織香	性犯罪			
やってはいけないウォーキング	青柳幸利	運動			
星野道夫物語 アラスカの呼び声	国松俊英	写真家 趣味			
同志少女よ、敵を撃て	逢坂冬馬	文学			
夜に星を放つ	窪美澄	文学			

ご予約は
スタッフまで!



QRコード

ているるHPから蔵書検索もできます!
<http://www.tiruru.or.jp/facility/library.html>

新設!! スタッフおすすめコーナー



スヌーピーたちの心の相談室 1
チャールズ M.シュルツ (著)
726.1 / AT / シ

今年のスヌーピーでおなじみ、チャールズ M.シュルツ生誕100周年です。著作『Peanuts』では気分屋・面倒くさがり屋・落ち込み屋(?)など色々な性格のキャラクターが登場し、彼らの可愛らしくも、我が身にも心当たりがあるようなやり取りが繰り返されます。
本書では「楽天才になる法」をテーマに選り抜きのコミックをたっぷり楽しめ、臨床心理士の解説も付いています。皮肉屋な時、落ち込みがちな時、登場人物のちょっとした一言にハッとしたりホッとしたりするかもしれません



心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣
長谷部誠 (著)
783.4 / ハ

Jリーグ、サッカー日本代表を経験し、そして現在も海外のリーグで活躍している長谷部誠さんの著書になります。著書の中で、長谷部誠さんがサッカーで活躍するために実践していることやサッカー選手になるまでのこれまでの歩みや日本のW杯やアジアカップのエピソードも書かれています。サッカーに興味がある方はもちろん、サッカーに興味がない方にも物事に挑戦するときや取り組むときについて参考になる本です。



魔女がいっぱい
ロアルド・ダール(作)
児童図書コーナー
933 / タ

今年のハロウィンでは魔女の衣装を見かけましたか?それはもしかしたら、本物の魔女だったのかもしれない。映画「チャーリーとチョコレート工場」の原作者が贈る、こわーい魔女の物語。ブラックでユーモラスでスリリングな作品が好きの方は是非、どうぞ。子どもでも大人でもきつとドキドキ……!



生き直す 私には一人ではない
高知東生(著)
778.21 / タ / 依存

著者は俳優で依存症問題の啓発活動に取り組んでいる高知東生さんと、高知東生さんのこれまでの生い立ちや芸能界に入って俳優として活動、2016年に覚醒剤と大麻の所持容疑で逮捕された話などが書かれています。
薬物依存になった経緯やそこからどのようにして薬物に依存しなくなったのかについても書かれています。私は高知東生さんのSNSの優しい言葉遣いで発信されているのを見まして素晴らしいと考え、高知東生さんの著書を読み、紹介しようと考えました。著書の内容もときにはユーモアを交えながら、これまでの人生について真剣に向き合い、優しい言葉遣いで書かれている本です。薬物依存やリカバリーカルチャーについて一緒に考えてみませんか。



侍女の物語
マーガレット アトウッド(著)
B 933.7 / ア

キリスト教原理主義によるクーデターで女性の人権が剥奪された国、ギレアデで「生む機械」となった侍女の物語です。最近読んだ作品の中で一番衝撃的で怖かった作品。元々この物語の主人公は、あたたかい家庭をもっていた女性で、家庭や仕事、友人関係などにも恵まれていました。クーデター後、それらがすべて奪われ、健康な子宮を持つ女性は支配者層である司令官の「子を産む道具」として仕える様に教育される。厳しい監視と処刑の恐怖におびえながらも、幼い娘と再会するために従順を装い逃亡の機会を伺うが……? 34年ほど前の近未来ディストピア小説ですが、とてもリアルで怖かったです。最初はネットドラマから知ったのですが、主人公の気持ちなどが知りたくて原作も読んでみました。気分がすぐ落ちてしまいますが、ぜひ一度は読んで欲しい作品です。



世界を変えた50人の女性科学者たち
レイチェル イグノトフスキー (著)
Y 402 / I

ここに登場する50人はみな、女性が教育を受けたり、男性に混じって仕事をすることすら制限されていた時代にも、常識を打ち破り、差別や困難と闘い、世紀の大発見や研究をなした女性たちです。周囲から「だめだ」と言われても「できるものなら止めてみなさい」とばかりに諦めなかった女性科学者の姿は、若きリケジョのみならず、壁に立ち向かいひたむきに夢を追うすべての人の背中を押してくれるはず。



世界から猫が消えたなら
川村元気(著)
B 913.6 / カ

物語は、主人公が「死ぬまでにやりたいことリスト」を作るところから始まります。自分がじきに死んでしまうと分かってから考える、これまで心にフタをしてきた事。不仲になった父との関係、病で亡くなった母との思い出。そして、自分とこの世界には何が必要だったのか気づきます。あなたが世界から消えて悲しくなるものは何でしょうか? チョコレート、音楽、手紙、それとも猫? 明るい登場人物と文章で軽快に読み進められ、朝の海(作中にも出てきます)のように爽やかな1冊です。



料理が苦痛だ
本多理恵子(著)
596 / ホ

Café Riettaオーナーによる自身の料理体験、世間にあふれている料理にまつわる呪縛、料理を辞める準備・決断・実践、これなら作れるレシピ集、料理をやめてからの家族の変化、の5章からなる1冊。女性だから妻だから母だから料理が好きとは限らないが、ご飯は日常である。料理で本当に大切なことは、「食卓を囲む人が美味しく幸せをわかちあうこと」と著者は説く。